

# 玉川上水を未来へつなぐ

千川上水・仙川・雑木林・農地を含めた  
水と緑のネットワークをめざして

江戸時代につくられた玉川上水は、今も武蔵野台地の貴重な自然空間です。地域の景観としても欠かすことができません。この玉川上水を基軸に、千川上水、仙川、雑木林、農地といった水と緑のネットワークをより豊かにしていくため、その方法をみんなで考えてみませんか？

日時: **12月4日(日)**  
**午後2時～4時30分**  
(1時30分開場)

会場: **武蔵野芸能劇場**  
**小ホール** (三鷹駅北口 徒歩1分)

- ・定員: 50名(事前申込み不要、直接現地へ)
- ・参加費: 無料
- ・問合せ: 玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会  
TEL: 090-5533-2316(同会・田中)  
Eメール: tanaka95@jcom.zaq.ne.jp



桜橋から玉川上水の下流を臨む

### —当日のプログラム—

#### ◆基調報告

これまで当会が蓄積した知見(現状と課題)を以下のテーマ別に紹介します

- ・自然環境
- ・歴史的資産
- ・まちづくり(景観、観光など)
- ・「水」と暮らしとの関わり

#### ◆交流会(お茶とお菓子を楽しみながら)

基調報告を受けて、玉川上水を未来へつなぐための方法について、意見交換します

境山野緑地の雑木林  
「独歩の森」



後援団体: 玉川上水ネット、武蔵野史談会、  
武蔵野の森を育てる会

# 武蔵野台地にひろがる水と緑の基盤

## 玉川上水とは

江戸時代の初期（1653年）、江戸城等に飲料水を供給するためにつくられました。多摩川から取水し、羽村から四谷大木戸までの全長43kmが築かれました。

## 分水網の開削

その後、玉川上水から多くの分水（用水路）が開削されて武蔵野台地の農地へも水を供給しました。分水の例として、千川上水、野火止用水などがあります。

## 緑の基盤

武蔵野台地には、食料生産のための農地、農家を風雨などから守るための屋敷林、生活燃料（薪など）や腐葉土を確保するための雑木林があり、これらは農村生活を支える緑の基盤でした。

## そして今…

都市化された武蔵野市や近隣地域では、このような水と緑が自然や景観の資源として市民生活にやすらぎを提供しています。これらを適切に保全していくことが求められています。東京都は1999年に歴史環境保全地域として、国は2003年に史跡として指定しています。

## 未来遺産・日本遺産への取り組み

市民団体「玉川上水ネット」が中心となって日本ユネスコ協会の「未来遺産」への登録、「玉川上水・分水網の保全・再生連絡会」が文化庁の「日本遺産」への登録をめざして、それぞれ活動を行っています。

## 連続講座で学んできたこと

玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会では、2016年度武蔵野市生涯学習事業費補助金を受け、以下の連続講座を実施してきました。

### 第1回 講演会 「さとやまと水辺の生物多様性の保全と市民の参加」（講師：鷲谷いづみ氏）

この分野の第一人者を講師に招き、生物多様性が私たち人間社会にとっていかに大切かを、具体的な例をもとにお話いただきました。そしてその保全のために、外来種の除去や科学的調査への参加など、市民として担える役割がたくさんあることを学びました。（9月19日）



第1回 講演会(満席の会場)

### 第2回 見学会

#### ①玉川上水と雑木林を歩こう

独歩の森（境山野緑地）から野鳥の森公園まで、玉川上水と雑木林を見学しました。金本敦志氏（西武・武蔵野パートナーズ パークレンジャー）の解説のもと、その起源を学ぶとともに植物や生き物を観察し、外来種が多いことや、萌芽更新などによる自然再生が必要ということなどを学びました。（10月22日）



第2回 見学会(上水の観察)

②武蔵野市を流れる唯一の河川 仙川（武蔵川）を辿る  
（11月13日予定）

③千川上水の今昔と水と緑の見学会（11月27日予定）

### ★12月4日当日 第3回 市民シンポジウム

これまでの連続講座で学んできたことを総括します。そして、玉川上水を基軸とする水と緑のネットワークを豊かにするため、市民主体の活動を広げていくきっかけにしたいと考えています。

## 玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会

東京を東西に流れる水と緑の回廊「玉川上水」を守り育てていきたいと、2014年に武蔵野市民でこの会をつくりました。市民参加の学習会や見学会を企画し、玉川上水ネットの一員として未来遺産への登録に向けた活動も行っています。多くの方のご参加をお待ちしています。  
(2016.11)